

冬の災害、寒さ対策は大丈夫ですか？

災害時の被害を最小限にするには日頃の備えが肝心です。冬に向けて家庭での防災対策を見直しましょう。

寒さ対策を万全に

冬季に災害が発生し、避難所などへ避難をする場合、防寒着を含めて最低1泊分の冬装備が必要です。安全を確保し自宅に残る場合でも、被災直後は停電する可能性が高いので、電池式暖房器具やカセットこんろなどの備えがあると安心です。

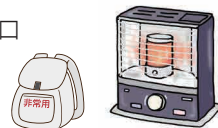
車も冬の装備に

雪が積る前にスタッドレスタイヤに交換するほか、長靴やスコップ、牽引ロープなどを用意しておきましょう。悪天候で車が立ち往生した場合に備えて、使い捨てカイロや毛布、飲料水などがあると安心です。

災害で電気やガスが使えないときに、寒さをしのぐ場所として、一時的に自家用車に避難することも想定されます。ガソリンなどの燃料は早めに給油しておきましょう。

寒さへの備え

- カセットボンベ式や灯油式のものなど、電気を使わないポータブルストーブ（暖房や調理などで使うカセットボンベは多めに用意）
- 毛布や寝袋 ●使い捨てカイロ
- 防寒着や帽子、手袋など



日頃からの備え

- 食料、飲料水 ●カセットこんろ、カセットボンベ ●懐中電灯やランタン、乾電池 ●衣類、タオル ●携帯用ラジオ ●モバイルバッテリー ●普段飲んでいる薬や常備薬 ●衛生用品（マスク・アルコール消毒液・体温計など）

備蓄品は定期的に点検し、使える状態かを確認しましょう！

問合せ 危機管理課（内線3343）

水道管の凍結に注意

寒さが厳しくなると水道管の凍結が増えます。水道管が凍結すると、水道が使えなくなるだけでなく、修理代など思わぬ出費につながります。凍結の恐れがあるときは、昼夜を問わず水抜きをしましょう。

こんなときは要注意

- 気温がマイナス4℃以下のとき
- 一日中、気温が氷点下の真冬日が続いたとき
- 旅行などで長期間水道を使用しないときや、空き家を管理しているとき（漏水事故を防止するためにも、季節に関わらず水抜きをしましょう）



凍結してしまったときは



水道管や蛇口などにタオルを巻き付け、上からぬるま湯をゆっくりかけます。熱湯を直接かけたり、直火を当てたりすることは絶対にやめましょう。水道管や蛇口が破裂する危険があります。

30分ほど待っても水が出ないときは、市の指定給水装置工事業者に修理を依頼してください。費用は自己負担です。

指定給水装置工事業者が分からないときは、問い合わせてください。市ホームページからもご覧になれます。

水抜きをするとき

- ①蛇口を開け、水を流す
 - ②水抜き栓のハンドルが止まるまで右に回す（レバーの場合は「止」の方向に操作する）
 - ③空気入れ蛇口がある場合は、全開にする
 - ④しばらくしてから空気入れ蛇口と蛇口を閉める
- *給湯器の水抜きは、取扱説明書に従ってください。

水を出すとき

- ①空気入れ蛇口と蛇口が閉まっていることを確かめる
- ②水抜き栓のハンドルを止まるまで左に回す（レバーの場合は「出」の方向に操作する）
- ③蛇口をゆっくり開ける

空気入れ蛇口 立ち上がり管 中間バルブ



水抜き栓とは…

水道管の水を抜くための装置です。設置されている場所は、家庭によってさまざまです。普段から、水抜き栓の場所と動作を確認しておきましょう。

問合せ 水道施設課（内線4311）